

国立大学法人一橋大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

一橋大学は、市民社会の学である社会科学の研究総合大学として、日本におけるリベラルな政治経済社会の発展とその指導的、中核的担い手の育成に貢献するとともに、21世紀に求められる先端的社会科学の研究教育を積極的に推進し、その世界的拠点として、日本、アジア及び世界に共通する重要課題を理論的、実践的に解決することを目指している。第2期中期目標期間においては、新しい社会科学の探究と創造、全学共通教育と専門教育の有機的連関及び他大学との連携等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、一橋大学のグローバル化をコアとする大学戦略「学長見解 2013」を作成し、同戦略に基づき、短期海外研修プログラムの必修化に向けたデータ収集、チューニングに関する国内外のネットワーク形成等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、世界水準の教育拠点として「スマートで強靱なグローバルリーダー」を育成する戦略的・意欲的な計画（平成25年度に中期計画を変更）を定めて積極的に取り組んでおり、平成25年度においては、海外短期語学留学必修化に向けた準備や、学期改革案の検討を行っているほか、チューニングに関する国内外のネットワークの形成や世界最高の社会科学系教育研究拠点形成を推進している。

(機能強化に向けた取組状況)

短期海外研修プログラムの必修化に向けたデータ収集や派遣・受入両面での学生・教員の流動化の促進を目指した学期改革の検討を実施するとともに、チューニングに関する我が国初となる組織「森有礼高等教育国際流動化センター」及び社会科学トップレベルの研究を遂行するための「一橋大学社会科学高等研究院」の設置を決定しているほか、多様な教員を確保するために、平成26年4月に設立予定の「森有礼高等教育国際流動化センター」において、年俸制の導入を決定している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長のリーダーシップの下、教育研究組織の再編成を行い、チューニングに関する日本初の組織「森有礼高等教育国際流動化センター」を平成26年4月に設立することとし、一橋大学が中心となり、国内チューニング連携基盤である「Tuning Japan」を実質化し、国内外でのチューニングに関する連携等の強化を図ることとしている。
- 各種監査に一元的な対応ができるよう、内部監査室を改組し、専任の室長を配置し

ているほか、大学の将来構想等の企画業務を総合的に所掌するとともに学長・理事等の支援体制を強化するための組織として、総合企画室を設置している。

【評定】 中期計画の達成達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- 〔①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善〕

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大学独自の募金活動「一橋大学基金」を展開しており、平成 25 年度においては、在学生及び新入生の保護者を対象とした特典（寄附者のネーム入りカレンダー）付き「学生支援振興募金」や寄附の実績がある者にさらに寄附を働きかける「もう一口運動」等を実施し、1 年間で総額約 9 億 9,000 万円の寄附金を獲得している。
- 衛生機器維持管理委託業務契約を 2 年から 3 年に、情報入出力運用支援サービス契約を 4 年から 5 年に変更するなど、複数年契約を 21 件に拡充し、1 年当たり約 1 億 2,000 万円の節減効果を得ている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- 〔①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進〕

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 国内外の知名度の向上を目指し、一橋大学の概要や研究教育内容、魅力等を効果的に発信するため、一橋大学ムックを刊行するとともに、一橋大学ムックで好評だった写真や特集記事等も使用した多言語版（英語・中国語・韓国語併記）を大学で作成することとしている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 教員が、学外で学生の個人情報記録されたノートパソコンを紛失する事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 平成 30 年度までに当該年度以降の新入生全員を対象とする短期海外研修プログラムの必修化を目指し、その段階的準備として、大学の全額負担で英米豪の大学等教育機関に学生モニター 100 人を派遣して語学力向上を測定するとともに、教育プログラムや経験内容等に関するアンケート調査や語学学校等の視察の実施など、必修化のためのデータ収集等を広く行っている。
- ネイティブ教員による少人数授業の英語コミュニケーションスキル科目を学部 1 年次生全員の必修科目としているほか、アカデミック・プランニング・センター (APLAC) でネイティブ教員に英語の自由ディスカッション時間を担当させ、学生の英語スキルの向上の場を設けるなどの取組の結果、平成 26 年 1 月時点の 1 年次生の TOEFL の平均スコアが、平成 21 年 12 月の 1 年次生の平均スコアと比較して 20.1 点向上している。
- 学生の学修成果を蓄積できるポートフォリオシステムを導入し、レポートの提出、テスト・アンケートの回答、資料の閲覧を可能とし、その結果、学生が授業の予習・

復習に活用するだけでなく、大学が蓄積した経験・知識を常時確認できるようになり、学生の自立的学修の支援が強化されているほか、留学の申請手続き、留学報告等に加え、就職活動支援や課外活動支援等でも利用可能となり、幅広い学生支援が可能となっている。

- 就職活動を始める学部3年次生に内定を獲得した学部4年次生が就職活動のノウハウを伝授する「就活サポーターズ制度」を平成25年度に導入しており、本制度による就職活動アドバイスを得た学生は、11月から3月までの5か月間で延べ1,000名を超えている。